

・ 3.8国際女性デー中央集会 ・

一人ひとりのパワーを結集!

～社会を変える取り組みの加速へ～

主催者挨拶で芳野会長は、「一人ひとりが、声を上げ、行動することで間違いなく世の中は変えられる。誰もが多様性を認め合い、互いに支え合う、公正な職場・社会の実現に取り組んでいこう」と力強く訴えました。

基調講演では、UAゼンセンの永島智子会長から、「現状の女性参画への課題を解決するには、自分が変わるしかない」「解決の方向性として、アンコンシャス・バイアスを捨てる必要があるが、勝手に変わってくれるものではない。意図的に見える景色を変えることが大事」と、自身の経験も交えたお話がありました。



▲参加者に向けて力強く呼びかける芳野会長



▲永島会長による基調講演



連合は、3月8日の国際女性デーに合わせて「3.8国際女性デー中央集会」を対面とオンライン併用で3月6日に開催し、生保労連からも各組合女性役員・組合員を中心に参加しました。社会全体にジェンダー平等を浸透させていくための一人ひとりの行動の重要性を改めて認識し、共有をはかりました。

最後に、連合東京の菊池るみ女性委員会委員長から「女性の課題解決は女性自身が意思決定の場に参画し、声をあげなければ実現しない。参加者のみなさんが思いを共有し、構成組織、地方連合会、単組にも共有をお願いしたい」とのメッセージが述べられ、一丸となって取組みを前進させていく必要があることを確認し合い、閉会しました。



▲菊池るみ女性委員会委員長による閉会挨拶

◎ 国際女性デーとは?

1857年にニューヨークの被服工場で多くの女性たちが亡くなった火災事故をきっかけに、3月8日に低賃金・長時間労働への抗議行動が実施されたことが起源と言われています。その後3月8日は「女性の政治的自由と平等のために行動する記念日」と位置づけられ、世界各地で様々な行動が行われています。



当日のしおりやアピールを掲載した連合ホームページは、こちらからご覧になれます